



TITLE:

資料紹介:松室家本

AUTHOR(S):

CITATION:

資料紹介:松室家本. 静脩 1964, 1(2): 4-4

ISSUE DATE:

1964-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36224>

RIGHT:

資料紹介

- **細川家本** 本年7月20日に、熊本市北岡にある細川家宝庫に収められていた漢籍類205部2,682冊が本館に寄託された。永青文庫理事長細川護貞氏は熊本藩主直裔の当主であり、今回寄託の図書も同家伝来の由緒あるものである。

図書の内訳は経書刊本を主とするものであって、中国のものは明版10部・清版16部、その他は日本の刊本類で、時代は江戸時代初期から明治時代初期にわたっている。いずれも斯学研究の好資料である外、藩学の事情をうかがう資料となるものであろう。

- **山田家本** 本年2月20日に山田一夫氏から「校正古語拾遺」以下305点750冊の図書が本館に寄託された。寄託者山田一夫氏は本学医学部出身で医学博士、現在京都府立医科大学名誉教授である。今回寄託された図書は博士の父祖の収集し、あるいは編述されたものの一括で、国文学を主とし、特に、宝徳3年(1450)の年記のある「千載和歌集」の筆写本などが目をひく。

- **松室家本** 本年2月20日に松室竜雄氏から松室本家日記及家記由緒14点が本館に寄託された。

現在の松尾神社の摂社月読社の創設は遠く顕宗天皇3年にさかのぼるが、松室家は創設以来累代この社の禰宣職を専掌し、遠祖には六条天皇の御生母も出した京洛社家中屈指の名門である。

今回寄託された文書類は上記松室家伝世の系譜、家記類および延宝3年から明治8年に至る日記等の集成である。これらは、松室家および月読社の歴史的変遷を伝える資料であるほか、有職故実の典故として、また近世の神社および神道史資料として価値あるものである。

本学への図書の寄贈つづく

■ 故丸岡健次君の収書農学部へ

故丸岡健次君は、昭和38年4月16日、全く突然に他界された。生前に農学部大学院ドクター・コースの2回生に在学中であった同君は、勉学の徒として学界からの期待も大きかっただけにその死が惜まれてならない。

このたび同君の御尊父丸岡秀氏は、その収書444冊を農学部農林経済図書室に寄贈されたが、その図書のどの1冊を手にしても丸岡君のありし日がしのばれる。

■ 復興途上の薬学部へ

昭和37年12月29日未明、火災により全焼した図書室の復興に日夜努力している薬学部へ内外の個人または会社より多数の図書の寄贈が続いている。この紙上をかりて感謝の意を表すとともに、寄贈者名および書名を以下に掲げる。

- Dr. W. T. Sumerford. (米国のミードジョンソン社研究所薬化学部門主任)
Chemical Abstracts ; Vol. 15-57 (1921—1960)
- 石黒武雄 (京大名誉教授、第一製薬KK社長)
薬学雑誌 (明37～昭33)
日本化学総覧 1877～1961
- Dr. E. Schlittler (チバ製薬KK研究部長)
Helvetica Chimica Acta ; Vol. 15-45 (1932—1962)
TETRAHEDRON ; International Journal of Organic Chemistry,
Vol. 15-18 (1961—1962)
- サンド薬品株式会社
Helvetica Physiologica et Pharmacologica Acta ; Vol. 3—20 (1945—1962)